

平成28年度（第60回）
岩手県教育研究発表会発表資料

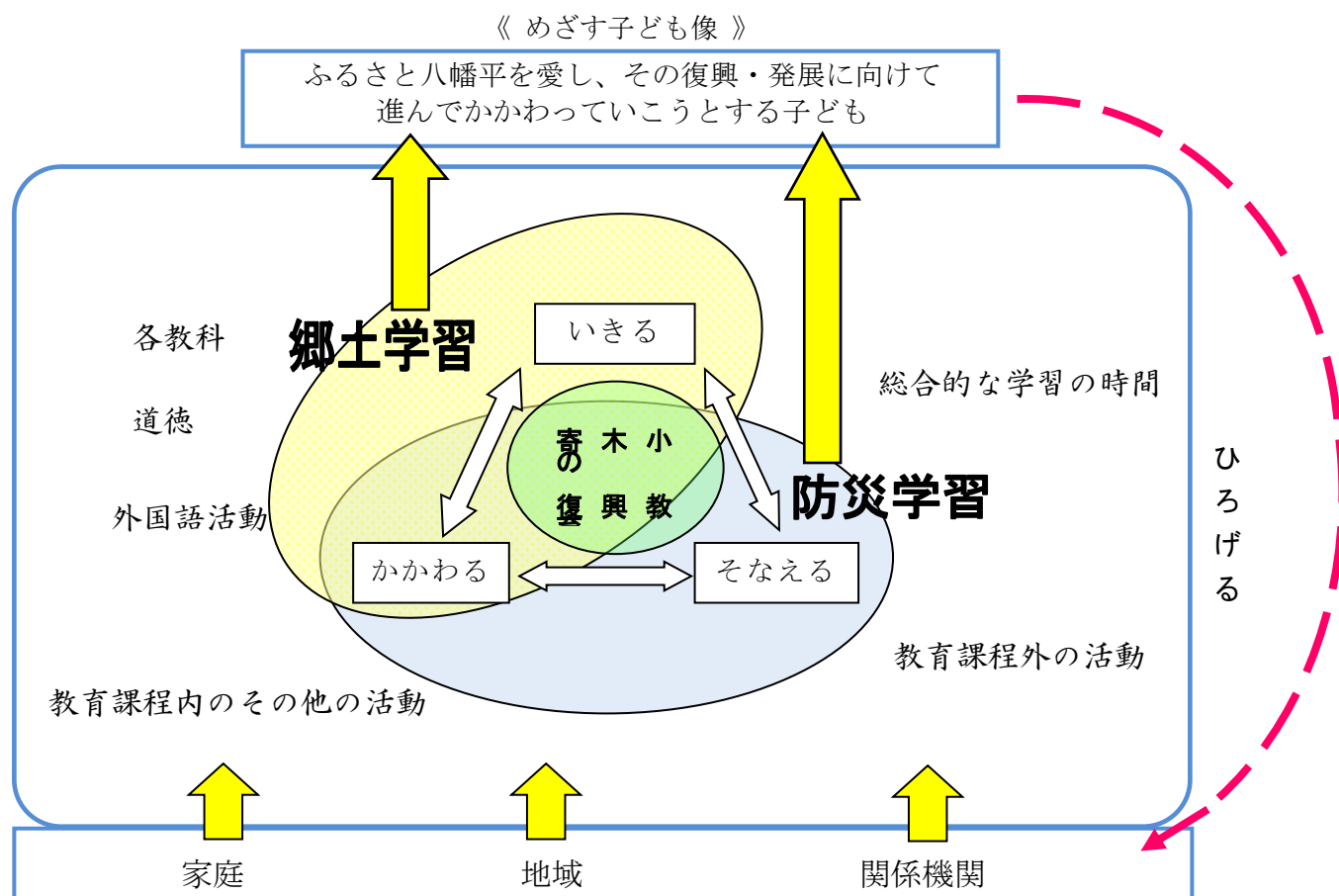
いきる・かかわる・そなえる分科会

平成28年度「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」
「家庭・地域と連携した防災教育のあり方」
～まなび、ひろげる活動(学習したことを発信する活動)を通して～



平成29年2月10日
八幡平市教育委員会
八幡平市立寄木小学校
川 上 孝 悦

復興教育推進イメージ図



研究内容

- (1) 「いわての復興教育」プログラムに基づく教育活動の推進のあり方
 - ア 復興教育全体計画の見直し
 - イ 学校安全計画の見直し
- (2) 「いわての復興教育」副読本を活用した授業のあり方
 - ア 複数年度を見通した年間指導計画の作成
 - イ 副読本を活用した教材作成
 - ウ 副読本を活用した授業
- (3) 実践的な防災教育の推進
 - ア 親子防災マップづくりと防災マップによる「身近な危険」学習会
 - イ 防災カルタ作成による家庭・地域への啓発
 - ウ 地域に学ぶ豊かな体験学習
- (4) 防災教育を適切に推進していくための職員研修
 - ア 発災が特に懸念される自然災害についての理解（火山災害、台風や大雨等による災害）
 - イ 非常変災時の職員の初動態勢、心構え
 - ウ 先進校視察研修

復興教育全体計画

学校教育目標

- ◎ 進んで学習する子ども【かしこく】
- ◎ 思いやりのある子ども【やさしく】
- ◎ 体を鍛える子ども【たくましく】
- ◎ がんばる子ども【ねばりづよく】

めざす子ども像

ふるさと八幡平を愛し、その復興・発展に向けて進んでかかわっていかうとする子ども

郷土学習の充実

防災教育の充実

	いきる	かかわる	そなえる
3つの教育的価値と具体的な21項目	①【かけがえのない生命】 全ての生命は、かけがえのないものであることを実感し、大切にする。 ②【自然との共存】 自然の美しさに感動する心と畏敬の念をもち、自然とともに生きることについて考える。 ③【価値ある自分】 どのような状況下においても自分の存在を認め、必要とされる存在であることを認識する。 ⑦【体の健康】 周囲の環境を理解し、状況に合わせて安全に気をつけて遊んだり、運動したりする。	⑧【家族のきずな】 安心して生きていくための生活基盤として、家族の絆や家族の一員としての喜びを実感する。 ⑨【仲間や地域の人々とのつながり】 幼児や高齢の人々・障がいのある人々等と一緒に生活している社会において、互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々のありがたさを実感する。 ⑫【自分と地域社会】 自然災害が、くらしの変化や地域経済に与える影響について理解し、自分と地域社会との関係について考える。 ⑬【地域づくり】 郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。	⑯【自然災害発生のメカニズム】 自然災害が発生するメカニズムやそれぞれの災害について理解する。 ⑰【自然災害の歴史】 過去に起きた自然災害や自然災害と共存してきた人々の努力や工夫について調べ、防災や減災について理解するとともに、次の世代に語りついでいく。 ⑳【学校・家庭・地域での日頃の備え】 避難場所や避難方法、避難経路を把握して安全に避難する。家具の安全対策、避難の方法や落ち合う場所、非常時持ち出し品、放射線についての正しい理解など、学校や家庭でできる防災対策を行う。地域の防災システムを理解し、防災活動に参加する。

◎ 各教科

- ・確かな学力の保障〔全項目の基礎・基本となる力として〕
- ・自然（気候、土地等）についての理解〔そなえる⑯⑰〕 ・思春期教室〔いきる①③⑦〕

◎ 道徳

- ・重点項目の設定と指導法の改善〔いきる①③、かかわる⑧⑨⑬〕

◎ 生活科や総合的な学習の時間

- ・地域探検〔いきる②、かかわる⑨⑬〕 ・野草の学習、清水めぐり〔いきる②、かかわる⑬〕
- ・一流に学ぼう〔いきる③、かかわる⑨〕 ・キャップハンディ等福祉体験〔かかわる⑧⑨⑬〕
- ・復興副読本を活用した学習、防災マップ・防災カルタづくり等〔いきる①②、かかわる⑫、そなえる⑯⑰⑳〕

◎ 特別活動

- ・運動会、文化祭〔いきる③⑦、かかわる⑧⑬〕 ・修学旅行〔いきる③、かかわる⑨、そなえる⑰〕
- ・グリーンキャンプ〔いきる②③⑦、そなえる⑨〕 ・稲作学習〔いきる①②、かかわる⑨⑬〕
- ・八幡平遠足〔いきる①②〕 ・マラソン大会〔いきる③⑦、かかわる⑨〕
- ・避難訓練〔いきる①③⑦、かかわる⑨、そなえる⑯⑰⑳〕 ・スキー学習〔いきる②⑦、かかわる⑨〕

◎ 教育課程内のその他の活動

- ・こころとからだの健康観察〔いきる①⑦〕 ・Q・U実施と活用〔いきる③〕 ・誕生日給食会〔いきる①③〕

◎ 教育課程内のその他の活動

- ・寄木念仏剣舞伝承〔かかわる⑨⑬〕 ・運動会等地区行事への参加〔いきる⑦、かかわる⑧⑬〕

複数年度を見通した年間指導計画の作成

八幡平市立寄木小学校 復興副読本活用 A年度年間指導計画 ○いきる ◆かかわる ◇そなえる(A年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	上段：いきる (左記表中に実施月同色塗り)	下段：かかわる (左記表中に実施月同色塗り)
1年													道徳 ○『しぜんとともに』	生活科 ○『友だちや家族と遊ぼう』 ○『家族みんなによるこんでもちもち』
2年	短学活 ◇『そのとき どうする』 ・避難訓練 関連 p60～61		総合・生活 ◇『急な大雨・かみなり・ たつまき』 ・雷雲が近づくとサイン ・注意点と適切な行動の仕方 p62		「身近な危険と危険箇所調べる」 →	防災調べ学習発表会	総合・生活 ◇『ショート訓練を やってみよう』 ・地震避難訓練の意義とルール。 訓練 p59 総合・生活 ◇『台風のしくみと危害』 ・しくみと甚大な被害 ・日頃の備えと適切な行動 p51 A年度 2016		「ぼうさいカルタづくり」 →				道徳 ◆『ありがとう おまわりさん』 ◆生活科関連『まねいぞう』がつながりきずな『あてがえてきたいらいしやいませ』 道徳 ○『走れかまいたちキッチンカー』 ○学活『ゆめ先生が伝えたこと』 道徳 ◆『思いやりで心 友だち交流』 ◆生活科関連『今回の被災で感じたこと』『四つの教え』 ◆学活『今度は自分たちが『論議』に親しもう』	
3年			総合・生活 ◇『家族といっしょに 防災マップをつくらう』 A年度 2016		→		短学活 ○『つらいときかまえないときどうする』 ・こころと体の健康観察関連／or-6月Q-U関連 ○『絵をかいてみよう』						3・11 『いのちとくずすの日』 ・学校行事	学活(人権の花開き) ○はるかのひまわりロード ○理科関連『いきのこったイトコ』 道徳 ◆『協力し合って楽しい』 ◆総合関連『被災した大をセーフティドックに』『ふるさと科』で町を元気に ◆社会関連『防潮堤を見て学ぶ』『津波を乗り越えて』
4年			総合 ◇『火山のふん火と被害』 ・火山噴火のしくみと被害 ・火山噴火から身を守る方法 p49		「身近な危険と危険箇所調べる」 →	防災調べ学習発表会	総合 ◇『ぼうさい力を高めよう —ショート訓練のすすめ』 ・教室などの危険なところ・安全な場所 p56 総合 ◇『台風のしくみと被害』 ・台風の仕組みとその被害 ・台風への備え p60 A年度 2016		「ぼうさいカルタづくり」 →				道徳 ○『もっとで』で弁当配達 ○学活『多くの命を救った防災無線』 ○社会関連『三陸鉄道のたまたま』 道徳 ◆『三人の絆』 ◆総合関連『2人2脚2輪』まごころを運ぶバス ◆社会関連『地域のみんなまで助け合おう』	
5年	短学活 ◇『そのとき どうする』 p58～60 『地域の避難訓練 に参加しよう』		総合 ◇『急な大雨・かみなり・ たつまき』 ・積乱雲が近づくとサイン ・いち早く気づき、身の安全を 確保するための対処法 p51		→		短学活 ○『呼吸法で心のケア』 ○『手軽な運動ストレッチ』						道徳 ○『海人の心』 ○社会関連『みんなのくらしが よくなるためには』 ○学活『1年間やりきった入浴支援』 道徳 ◆学活『次の日は倍に笑おう』 ◆学活『未来のために—5つの提言』人々をつないで歌声 ◆社会関連『高校生が地域にかかわる』	
6年	体育関連 ○『チャレンジ に挑戦』		総合 ◇『家族といっしょに 防災マップをつくらう』 p63 A年度 2016		→		短学活 ○『呼吸法で心のケア』 ○『手軽な運動ストレッチ』						道徳 ○『20キロ圏内からきたキティー』 ○学活『夢、勇気をもって一歩 踏みだそう。』 国語『イーハートブの夢』関連 ◆『世界全体が幸福にならないうちは』 ◆総合関連『町を元気にするために、高校生サミット』道徳『まごころ』が集まった ◆社会関連『強くなってください。そして笑顔でいてください。』	

※ 2016.3.11
『津波のしくみ
と被害』学習

- ◇ 3ヵ年で復興副読本の全ての内容を学習する計画とした。
「そなえる」の領域を全学年で年度ごと共通の学習をする。
→ 教材研究や家庭からの協力をいただく上で効果的であった。
A年度内容：「火山のふん火と被害」「急な大雨・かみなり・たつまき」「台風のしくみと被害」等
B年度内容：「岩手や日本の主な災害」「大雪とその被害」「家族で地震にそなえる」等
C年度内容：「2011年3月11日 東日本大震災」「地震のしくみと被害」「津波の仕組みと被害」等
- ◇ 3ヵ年かけて、実践し年間計画の妥当性を検討していく。

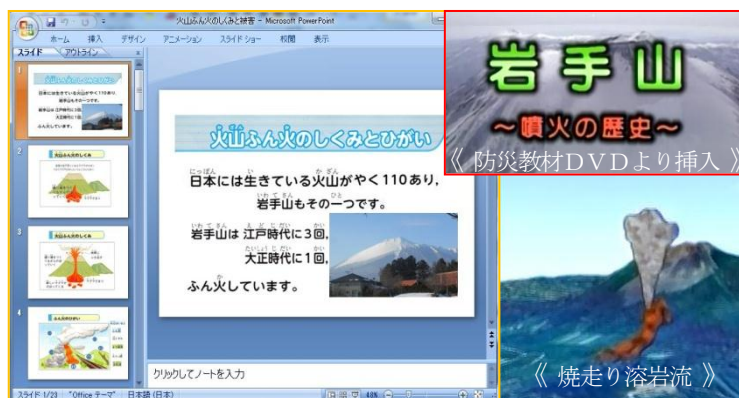
副読本を活用した教材作成

- 「火山のふん火と被害」編と
「急な大雨・かみなり・たつまき」編を作成

- 1 副読本のページをスライドに取り入れる。
- 2 資料写真・映像等の挿入
- 3 カスタマイズして使用

資料

- ・防災教材DVD
- ・気象庁 HP 防災啓発ビデオ
「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」等



「いわての復興教育」副読本を活用した授業

- 復興副読本「いきる・かかわる・そなえる」を活用しての授業実践
「火山のふん火と被害」 / 「急な大雨・かみなり・たつまき」

参観授業「火山のふん火と被害」

3年生

3, 4年防災学習略案

6月24日 5校時

○ねらい

- ・噴火のしくみを知る。・災害から身を守る方法を考える。
- ・参観した保護者の防災意識を高める。

○展開

学習活動	指導上の留意点	資料
1 身近に山があることで経験している楽しさを話し合う。 ・美しい景色 ・登山 ・温泉 ・山菜 …	・毎日見ている岩手山の美しさや、山がある楽しさについて気づかせる。 ・岩手山は大きくなるか問いかけ、児童の関心をもたせる。	・学校から見る穏やかな岩手山 ・山の恵み
2 学習課題を知る。 岩手山はどのような山だろう。	・岩手山は今でも地下では活動している活火山であることを知らせる。(休火山との言い方は現在していない)	
3 噴火のしくみを知る。	地下でマグマがたまり、ある量に達すると噴火することを教える。	・パワーポイント教材(映像資料)プロジェクト等
4 どんな物が噴き出されるか、どんな災害が起こるか考える。 ・火山灰 ・噴石 ・水蒸気 ・火山ガス ・溶岩 ・溶岩流 ・火砕流 ・土石流 ・火山泥流	・御嶽山の噴火のニュース等で知っていることなども想起させながら、どのような被害が起こるか考えさせる。 ・児童なりの表現で発表させ、用語等を教えていく。 ・映像等も手がかりにし、理解を深めていく。	
5 噴火による被害を考える。 ・噴石によるけが、家屋損壊 ・火山灰による農作物への被害 ・土石流などによる地域の被害 ・交通網の断絶	・被害について自分で考えることによって災害を予想する力や意識を高めたい。 ・県防災マップによると寄木地区は積雪期に(1686年と同規模の)マグマ噴火があった場合、学校周辺まで火山泥流が到達する可能性があることを知らせるとともに、避難することの大切さを理解させる。	・被害の様子(イラスト)
6 噴火災害から身を守るためにどのような準備が必要か考える。 ・避難する。 (屋内・高所・避難所) ・ヘルメットやマスク ・避難先を家族で決める ・どんなところに、どんな危険があるかを知って避ける。	・自然災害を止めることはできないことから、どのようにしたら身を守れるかを考えさせる。 ・ペア等で話し合ったり(参観中の保護者にも入っていただき、親子で話し合ったりする場面を取り入れる。	・話し合い発表用紙
7 学習をまとめる 岩手山は、温泉やスキーなどで私達を楽しませてくれる山です。でも、地下でマグマが活動しているのでも噴火するかも知れません。日頃から火山情報に注意し、避難場所の確認や避難用品を準備しておく心がけましょう。		
8 本時の学習を振り返る。	・きょうの学習を家族にも伝え、話し合っておくように伝える。	

児童感想 (日記から抜粋)

・…火山がもし噴火したら、マグマや大きな石や火砕流が出るということが分かりました。また、マグマは何千度もあるもので何でも溶かしてしまうので恐ろしいと思いました。私の家は岩手山の近くなので、避難区域に入っています。少し怖いと思いました。私はもっと火山のことを知りたいと思いました。

授業参観の保護者感想 2

岩手山の噴火が一番心配ですが、近年水害もありました。災害時の心掛けをしっかり学んでほしいと思いました。何度もすることが大事だと思いました。子どもたちは案外知っているのですね。大人も備えを考えなければと思いました。

授業参観の保護者感想 1

家で話そうと思っていても、なかなか話す機会がなかった防災のこと。学校でしっかりと学ぶことができていて良かったし、家でも話さきっかけになり、とても良い内容だと思いました。

授業参観の保護者感想 3

日本は自然災害の多い国です。未来に、これから起きるかもしれない災害に防災意識を高めておけば、いざというときに慌てることなく対応できるのでとても役立つ大切な授業だと思いました。

家族の災害時のルールを決めておくことも必要だと改めて感じました。

[とても生き生きとした授業参観でした]

親子防災マップづくりと防災マップによる「身近な危険」学習会

- 1** 夏休みを利用して親子で、自宅周辺や通学路等で起こりうる災害や危険について調べ防災マップを作る。また、家族で災害時の連絡方法や避難先、身を守るためにすることやしてはいけないことなど話し合う。



家族とのやくそく 3年

1 誰なん先
わたしのうちの、ひなん先は、より小、小学校

2 れんらくの方法
れんらくの1番は、おひさし
2番は、お
3番は、いっちゃんの家

3 身を守るためにすること
じしんの時は、やんがおさるまでテーブルやつくめの
下にへて身をまもる。たいふうの時は、窓の手をせんふ
しめて窓の中にいる。

4 身を守るために、してはいけないこと
じしんの時は、たおれるものの近くにはいかない。
たいふうの時は、せんたい外に出ない。川があふいたら
から川のそばには、行かない。

5 その他、たいしなこ
かいやうふかのこも考えて自分の身をいどうなっても
もれるようにふだんから心のじんぎをしておく。

・身近な危険についての
の気づき
・保護者の注意喚起

- ◇ 歩道や街灯が無いことなど災害安全に限定せず、生活安全・交通安全にも目を向けさせる。
ふだんから安全への意識を高めることが災害発生時の適切な行動に直結すると考える。

2 全校で「地区 身近な危険学習会」を実施する。



◇ 情報を整理し、
シールで視覚化



深化

- ◇ 親子で作った防災マップを持ち寄り、さらに理解を深める。
◇ 地域へと視野を広げることもできた。

3 自宅掲示用・「防災マップまとめ」を作成する。



発信

・身近な危険についての
の学び直し
・家庭への啓発

- ◇ 地区でのまとめをもとに、繰り返して身近な危険について学び直しをすることができた。
◇ 自宅周辺の危険についてさらに理解を深めた。

防災カルタ作成による家庭・地域への啓発

1 防災に関して大事なことを自ら考える。(読み札) / イラストで伝えたいことを明確にする。(絵札)

3年〔大雨と火山〕 4年〔台風と火山〕 5年〔大雪と火山〕 6年〔津波と火山〕



あ	雨が降る 川の増水 ああこわい
く	雲をみて 天気の変わりを 予想しよう
す	吸い込むな 火山灰は危険だよ
て	てんでんこ 自分で逃げる 高台へ
に	ニュース見て! 近づく台風に 備えよう
ひ	避難先と避難路は 家族で確認しておこう
ゆ	雪とかし 火山泥流 ふもとまで
よ	用水路 危ないから近づくな
る	ルールを家族で話し合い いざになったら迷わず行動だ
れ	連絡し 助けをもとめ 無事願う(171)
わ	忘れない あの日の 悲しみを(3.11)



・授業で学んだことを表現。

学び直し

◇ 防災だけでなく、郷土のよさについても知ることができるようにする。

2 ふるさと防災カルタで遊ぼう!

『読む人の後に、みんなで復唱してから、取るカルタ』で、防災意識を高める。

カルタ遊び後の児童感想

- ・いつどこで起こるか分からない災害で、カルタにある通り、家族でルールを決めるなどして、災害から身を守っていこうと思った。(6年児童)
- ・八幡平はこんなにいいことがいっぱいあるんだと思いました。こっちまで来るはず無いと思っていたけど、もしもを考えてこれからは気をつけたいです。(5年児童)
- ・命を大切にすることを改めてしっかり分かりました。何かあったら油断せずすぐ避難したいです。(4年児童)
- ・何より命が大事だと改めて感じました。八幡平市はきれいでとてもいいけど、危険はあるので気をつけたいです。(3年児童)



・遊びを通して、防災やふるさとについて理解。

学び直し

3 家庭・地域に配付する。 (市内小中学校・コミュニティーセンター・松尾地区保育所・学童保育クラブ等)



保護者からいただいた感想

- ・子どもに「防災カルタをやったどうだった?」ときくと、まず、返ってきたのは「楽しかった〜。」でした。楽しく遊びながら「これは大事だね。」「こんなときどうする?」とかを家族で話したり、ふとしたときにカルタのフレーズが頭に浮かんできたりしました。冬休みと言わず、時々一緒に遊びたいと思います。カルタにかかれた上級生の絵もとても上手で、八幡平に咲く花や、市の木・花・鳥、名所も覚えられ、防災のことについても学べる欲張りカルタです。今回の小学校の取組は非常にありがたく、私自身も勉強になりました。日々の生活へ生かして行きます。ご指導、ありがとうございました。
- ・普通のカルタと違って、防災ということもあり、文の内容も意識的によく聞きながら、取り組んでいたと思います。子どももちろん、親にとっても、防災に対して考えたり、話したりしながらとても盛り上がり楽しくできました。よい経験になりました。
- ・気づかされることがたくさんありました。(中略)いざ自然災害が起きたとき、遊びながら学んだものは、そのとき思い出されるので非常によい遊びだと思いました。今度は、他の人も巻き込んでやってみたいです。

・防災意識の高まり
・家庭・地域への啓発

学び直し

4 全校カルタ大会(3.11「命とくずなの日」に実施)

研究内容(3)ウ

地域に学ぶ豊かな体験学習

砂防堰堤探検隊



岩手山火山泥流の仕組み



・300年前と変わらないんだあ…。
・4mも積もったなんて…。

八幡平の自然に学ぶ:後生掛自然研究路

児童感想

・すごく熱そうな蒸気が、あちこちであがっていてすごかったです。
・噴気口の穴が怖かった。



・身近な食材を使った模擬実験の数々。意欲的に取り組み、噴火のしくみや火山泥流等について理解を深めることができた。圧倒的な自然のスケールの大きさも感じる事ができた。

研究内容(4)ア

発災が特に懸念される自然災害についての理解

学校防災アドバイザー派遣事業

講師:盛岡地方気象台 水害対策気象官・火山防災官

- 学区及び学区周辺に起こりうる自然災害として、岩手山の噴火や大雨洪水による災害について、知識・理解を深め、今後の指導や授業等に役立てる。



研究内容(4)イ

非常変災時における初動態勢、心構え

講師:現八幡平市博物館館長(東日本大震災時:大槌中学校校長)

- 非常変災時における対応力を高め防災教育の充実に資する。
- 東日本大震災時の職員の初動体制や避難所運営における学校の役割について学ぶ。

生徒の安否の確認、被害状況の把握から学校再開までの道のり、学習の保障と心のケア、子どもたちの大きな力などについてご講話をいただきました。



成果と課題

成果

- 1 家庭や地域で防災に対する関心を高めることができた。
- 2 自然災害が発生するメカニズムやそれぞれの災害について理解するとともに、防災や減災について知識を得ることができた。
- 3 防災マップにより、「起こりうる災害など身近な危険」について話し合い、避難(場所・方法・経路・連絡方法等)について家族との約束をすることができた。
- 4 カルタを作ったり遊んだりする活動を通して、自然の美しさや地域の良さに目を開くとともに、災害から身を守るために進んで行動する気持ちを育むことができた。

課題

- 1 生活安全や交通安全との関連を吟味し、有機的に結びつけて指導していくこと。
- 2 授業やカルタ遊びを通して学んだことを各地域や公民館、関連機関と連携して実践的な避難訓練をしていくこと。